

世界経済・金融市場動向(日本)

先月の振り返り

01 日本株式市場

1月の日経平均株価は上昇しました。日銀の金融政策正常化が後ろ倒しになり、緩和的な金融環境が継続するとの期待から、昨年末までの円高基調が反転し円安に転じたことでバブル後高値を更新する大幅高となりました。月の後半では、日銀がマイナス金利解除に向けた地ならしを始めたことで、短期的な過熱感が意識され上値が重い展開となりました。

02 日本債券市場

1月の日本長期金利は上昇(価格は下落)しました。月前半は能登半島地震の発生が金融政策正常化を遅らせるとの見方から金利は低下しました。月後半は日銀決定会合で、現行の金融政策維持が決定された一方で、物価見通し実現の確度が高まっているとの認識が示されるなど総じてタカ派的な内容であったことから、大規模金融緩和の修正が意識され、金利は上昇しました。

経済金融環境

01 日本経済環境

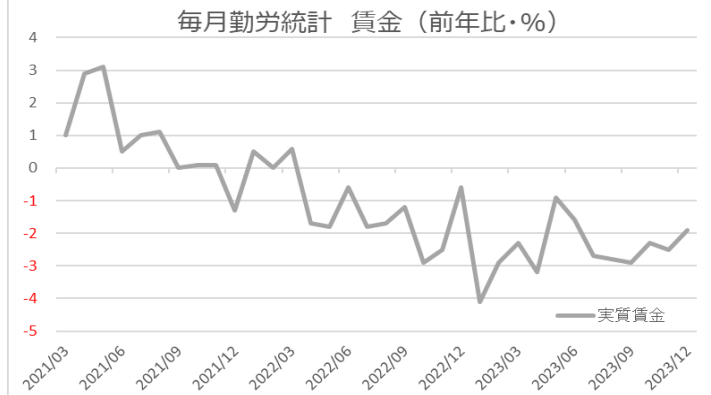
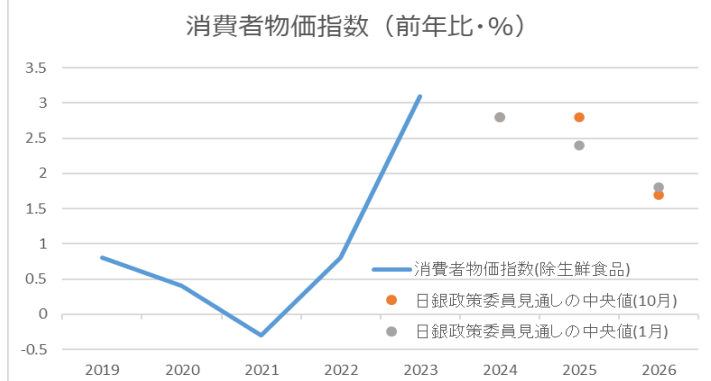
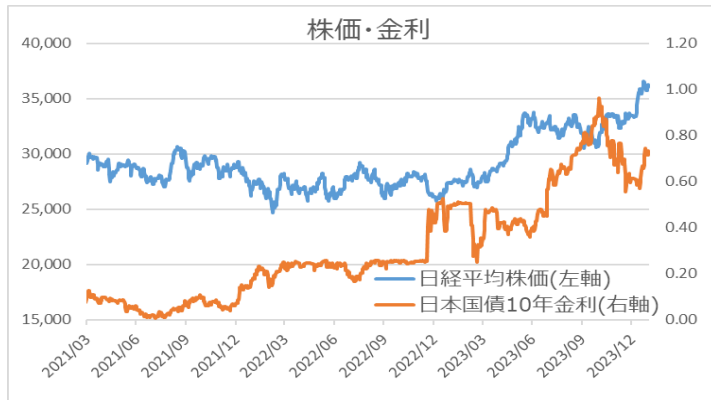
1月の展望レポートの物価見通しでは、2024年度、2025年度ともに2%近傍となっているほか、賃金と物価の好循環が緩やかに強まっている認識が示され、コストプッシュインフレからの転換が示唆されました。

2024年の春闘では高水準の賃上げ率が期待されていますが、毎月勤労統計の11月実質賃金は前年比▲3.0%と20か月連続でマイナス圏で推移しており、プラスに転じる時期が見通しにくいことから、マイナス金利解除後の追加利上げに慎重な姿勢が続くと考えます。

今後の見通し

01 日本株式市場

緩和的な金融政策が引き続き株価の支えになると考えられるほか、東証の要請による資本効率改善に向けた動きが企業決算の中で確認されれば、海外投資家からの買いが継続する可能性が高く、株価は堅調に推移すると考えます。一方で、半導体や電子部品においては在庫調整一巡後の最終需要回復が期待されており、この回復が見込めないなどのガイダンスが示された場合、ファンダメンタルズの弱さから株価は下落すると考えます。



(注) データ期間：2021/3/31~2024/1/31
(出所) Bloombergのデータを基にFDAlco作成

02 日本債券市場

日銀がマイナス金利解除に前向きなことから国内金利は上昇圧力がかかりやすい一方で、賃金と物価の好循環の確認には相当の期間を要するとみられ、マイナス金利解除直後の利上げは難しいと考えることから金利の上昇余地は限定的であると考えます。一方で、インフレ鈍化を背景に米国で利下げ観測が高まる場合や地政学リスクの顕在化等によりリスク回避的な動きが広がる場合は金利は低下すると考えられます。



■当資料は、情報提供を目的として、FDAlcoが作成したものです。特定の運用商品等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料にもとづいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信憑性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

世界経済・金融市場動向(米国)

先月の振り返り

01 米国株式市場

1月のS&P500指数は上昇しました。行き過ぎた利下げ期待の後退が相場の重しとなる一方で、AI関連の需要の高まりから、AI向け半導体やサーバー投資が積極化されるとの見通しにより、大手ハイテク株が相場の上昇をけん引しました。経済指標が底堅さを示しつつも、インフレの鈍化が継続していることから、米国経済のソフトランディングへの自信を深めたことも相場の支えとなりました。

02 米国債券市場

1月の米国長期金利は上昇(価格は下落)しました。上旬から中旬にかけては、米国雇用が堅調に推移していることが確認されたことに加え、FRB高官による早期利下げ観測に対してのけん制発言が金利上昇の要因となりました。下旬はFOMCで量的引き締めペースが今後緩和することが示唆されたことや、米財務省の借入見通しが下方修正されたことで米国債需給が改善に向かうとの見立てから、金利は上昇幅を縮小しました。

経済金融環境

01 米国経済環境

12月の実質可処分所得が堅調な労働市場を背景に、前月比+0.1%とプラス圏で推移していることや、株価上昇などの資産効果が消費を支えたことで、米国個人消費支出は、前月比+0.7%となりました。

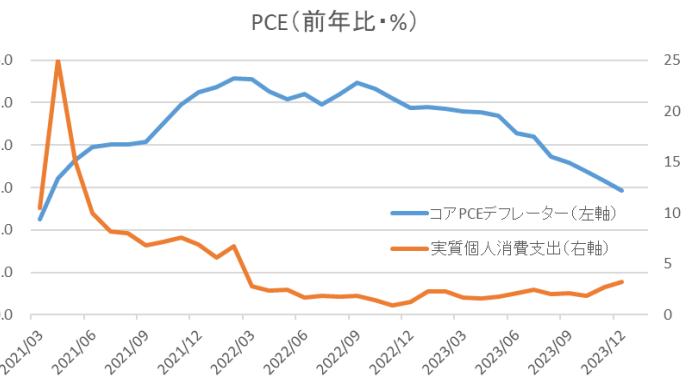
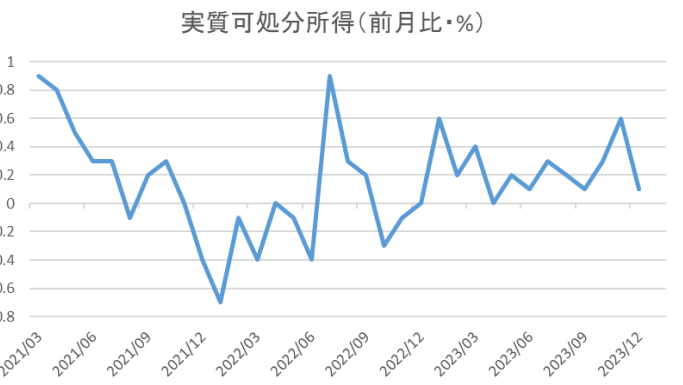
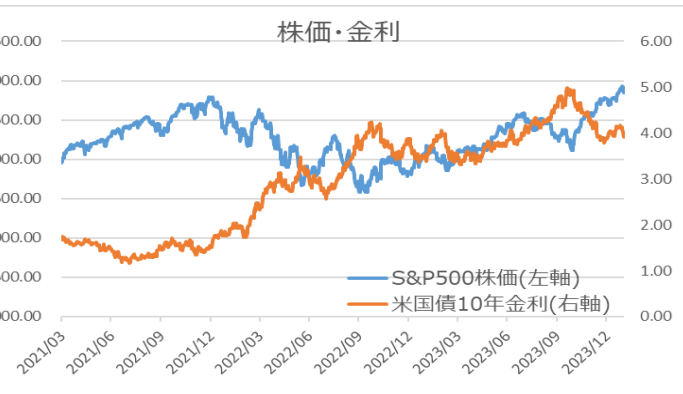
FRBが注目している、コアPCEデフレーターは財価格の落ち着きとサービス価格の緩やかな上昇鈍化を背景に2年9か月ぶりの低水準となりました。

今後の見通し

01 米国株式市場

指数寄与度の大きい大手ハイテク株の業績が堅調に推移しているほか、今後の設備投資についてAI関連を中心に積極化することが示されていることを背景に株価は底堅く推移すると考えます。

一方で、FRBの考える予防的利下げの認識と市場の認識には依然としてギャップが大きいことから、行き過ぎた利下げ期待が剥落する過程では、株価の上値は重くなると考えます。



(注) データ期間：2021/3/31～2024/1/31
(出所) Bloombergのデータを基にFDAIco作成

02 米国債券市場

米国債需給を巡る懸念が和らぎ、インフレ指標が鈍化傾向にあることは金利低下要因であるものの、想定以上に雇用情勢や個人消費が底堅く推移しており、インフレ再燃への警戒が必要な状況であることから金利はレンジでの推移を見込みます。

一方で、商業用不動産に関する債務問題が金融システムに影響するとの懸念が広がる場合や、米英と中東諸国の対立が激化した場合は、リスク回避的な動きから金利は低下すると考えます。



■当資料は、情報提供を目的として、FDAIcoが作成したものです。特定の運用商品等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料にもとづいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信憑性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。